

人となられたキリストによって神を知る

ヨハネ福音書1:14-18
(新改訳2017訳)

- 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。
- 1:15 ヨハネはこの方について証して、こう叫んだ。「『私の後に来られる方は、私にまさる方です。私より先におられたからです』と私が言ったのは、この方のことです。」
- 1:16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。
- 1:17 律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。
- 1:18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

(1:14)ギリシャ語・英語／行間訳

Καὶ ὁ λόγος σὰρξ ἐγένετο καὶ ἐσκήνωσεν ἐν ἡμῖν, καὶ ἐθεασάμεθα
and the Word flesh became and tabernacled among us, and we beheld
τὴν δόξαν αὐτοῦ, δόξαν ὡς μονογενοῦς παρὰ πατρός, πλήρης
the glory of him, glory as of an only begotten from a father, full
χάριτος καὶ ἀληθείας.
of grace and of truth.

(1:16)ギリシャ語・英語／行間訳

ὅτι ἐκ τοῦ πληρώματος αὐτοῦ ἡμεῖς πάντες ἐλάβομεν καὶ
Because of the fullness of him we all received and
χάριν ἀντὶ χάριτος
grace instead of grace;

【祈りながら考えよう】

- (1) 「私たちの間に住まわれた」(14節)は、原文では「私たちの間に幕屋を張った」と直訳されますが、それはどういう意味ですか。
- (2) 「恵み」と「まこと」という言葉は、ギリシャ語辞典によれば、どういう意味ですか。17節の「恵みとまことはイエス・キリストによって実現した」とはどういう意味ですか。
- (3) 「ひとり子の神が、神を説き明かされた」(18節)とはどういう意味ですか。

【解説】

(1) ことばは人となった

《ことばは人となって、私たちの間に住まわれた》

① 私たちと同じような人間になった

イエスが赤子としてベツレヘムの飼い葉おけにお生まれになった時、「ことば」は人となった。神の御子として、御父とともに常に天におられたが、罪人を救うために、ご自身の上に、人性をおとりになり、人間の肉体をとられてこの世にやって来られた。彼が肉体をとられた目的は、罪人たちのために生きて、罪人たちのために死ぬことであった。

彼は、罪を除いて、その他の点ではすべて私たちと同様な人間である。

「私たちの間に住まわれた」は、原文では「私たちの間に幕屋を張られた」と訳せる。「ことば」は受肉されることにより、神を人間性の中にもたらしただけでなく、また人々の間の、地上での神の住居として、神にとって1つの幕屋となったのである。



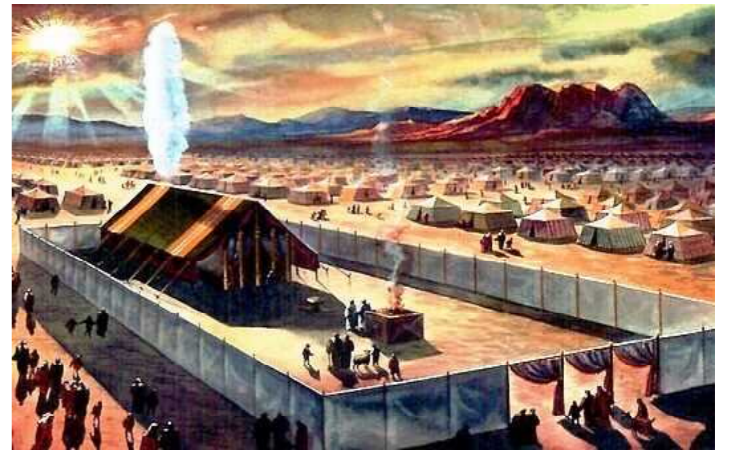
ことばは人となった

彼は、奇蹟的生誕ではあったが、私たちと同じく女から生まれた。私たちのように、知恵と身の丈の両面において、^{せいじ}嬰兒から少年へ、それから大人へと成長された(ルカ2:52)。

私たちと同じように、空腹、喉の渇きを体験しておられた。そして、食事をし、飲み、眠り、疲労を覚え、苦痛を味わい、涙を流し、喜び、驚嘆し、怒り、またあわれみに心を動かされることもあった。

私たちと同じように肉体をおとりになった彼は、祈ることをされた。また聖書を読み、試練にあわれ、ご自分の人としての意志を父なる神の御旨に服することをされた。

この同じ肉体で、彼は、実際に苦しみを受け、その血を流し、そして、死なれた。さらに葬られ、それから、よみがえられ、そして、天にお上りになった。この一切の瞬間、瞬間においても、彼は、人であると同様に神であられた。



荒野で幕屋を張った

② 神性と人性の二つの性質の一致・結合

キリストの一人格(ペルソナ)の中における、^{しんせい}神性と^{じんせい}人性の二つの性質の一致、結合は、キリスト教における最大の神秘の一つである。英国教会では、この真理を次のように表現している。

「御子は、御父のことばであり、永遠より、…真の永遠の神である。また、御父とともにあって一つの本質であり、祝福された処女の胎において、彼女の性質から人の性質をおとりになった。それによって、二つの十全にして完全な性質、すなわち、神性と人性は、一人格の中に一つに結びつけられている。そして、この二つの性質は、決して分割されるものではなく、ひとりのキリスト、真の神、真の人であられる。」

私たちの主は神であり、同時に人であるが、この神性と人性とは決して混じり合うことはなかった。一方の性質が、他方の性質を飲み込むことはなかった。キリストの神性は、ペールが掛けられてはいたが、一瞬でも、決して除外されるようなことはなかった。

キリストの「人間であること」は、この地上での生涯の間、一時も私たちと異なるものはなかった。ただし、神性と一致によって、その尊厳さは強く表れていたが、キリストは、完全な神であられたが、受肉の瞬間から、常に完全な人であった。

③ 罪人をとりなすキリストは、神であり、また人でもある

天に上り、罪人をとりなすために御父の右の座についておられるキリストは、神であり、また人でもある。キリストは、完全な人ではあるが、決して神であることをやめることはなかった。十字架で罪のために苦しまれ、私たちの罪となられたお方は、「肉において表された神」であった。

教会はキリストの血によって買い戻されたが、その血は、「神の血と呼ばれた(使徒20:28英訳)。キリストは、処女マリヤから生まれた時に、完全な意味において肉体をとられたのであるが、どんな時でも永遠のことばであることをやめることはなかった。



④ 私たちの仲保者としての資格要件

キリストの一人格の中に二つの完全な性質(神性と人性)があるということは、罪人が必要とする仲保者としての資格を完全に備えるもの。私たちの仲保者は、実際に人であるゆえに、私たちが思いやることのできるお方である。しかし同時に、彼は神であるゆえに、私たちのために御父と交渉のできるお方である。

ことばは人となられた。それゆえ彼は、ご自分の民の痛み苦しみを、自分のものとして感じ取ることができる。彼は、自ら試みに耐えられたからである。彼は神であられるゆえに全能である。しかし同時に、彼は人であるゆえに、私たちと同様に感じることができる。



⑤私たちはこの方の栄光を見た

《私たちはこの方の栄光を見た。

父のみもとから来られたひとり子としての栄光である》

この御言葉は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの面前で、ほんの短い時間ではあったがご自分の栄光をそのまま表した「主の変貌」を、特別に指している。

山上の変貌を語った時のペテロの言葉と、この14節の後半の言葉を併せて読む時、そのように理解できる(Ⅱペテロ1:16-18)。

《16 この私たちは、キリストの威光の目撃者なのです。

17 キリストが父なる神から誉れと栄光をお受けになったとき、おごそかな、栄光の神から、こういう御声がかかりました。

「これはわたしの愛する子、わたしの喜ぶ者である。」

18 私たちは聖なる山で主イエスとともにいたので、天からかかったこの御声を、自分自身で聞いたのです。》



私たちはキリストの威光の目撃者

(2) 恵みとまことに満ちておられた

《この方は恵みとまことに満ちておられた》

ことばは、人となられた時、彼は、儀式律法の難儀な要求に対して、恵みの福音に満ちあふれて、この世に来られた。

ここで「恵み」とは、神がその愛する子どもたちに注いでくださる、慈愛に満ちた恩恵を意味しているが、ギリシャ語辞典による説明によれば、恵み(「**キ**カリス)」とは、「新約聖書では、イエス・キリストによってもたらされた祝福(救い)を、その無償であること、また人種的限界(特に資格や宗教的限界)を超えて、広く世界のすべての人に及ぶことを強調する語」である。

また、まこと(「**キ**アレセア)とは、「真実、信実、誠実、真っ直ぐであること、『神の真実』がイエスの中に実現・実体化されていること」と説明されている。

彼は、モーセ律法による「型や影」とは反対に、まこと(真理、実体、実際)に満ち、真実で確実な慰めの言葉を持って来られた。モーセ律法が示していたことは、神の「恵みとまこと」という概念であった。しかし、今やそれは単なる概念としてではなく、ひとりの具体的な人格、神が人となってこの世に来られたイエス・キリストにおいて具現した。

χάρις (カリス) とは

(古典では、優美、優雅; 好意、親切; 感謝; LXX (70人訳旧約聖書) では上位の者が下位の者に対して示す特別の好意、恩恵、寵愛)

- ① 優しさ、思いやり、親切、コロ4:6.
- ② 恵み、恩恵、恩寵、愛顧; 新約聖書では、イエス・キリストによってもたらされた祝福(救い)を、その無償であること、また人種的限界(特に資格や宗教的限界)を超えて、広く世界のすべての人に及ぶことを強調する語、ロマ3:24、同1:7.
- ③ (換喩的) 恵み深い行為、好意の実証、使25:3; 好意のしるし、贈り物、Ⅰコリ16:3; 恵みを受けている状態、恵みの結果(証拠)、ロマ5:2、Ⅰペテ2:19, 20.
- ④ (恵みを受けた者の) 感謝、ロマ6:17; χάριν ἔχειν, 感謝する、ルカ17:9.

(c) 織田昭 電子版「新約聖書ギリシア語小辞典」改訂第4版

ἀλήθεια (アレセア) とは

- ① 真実、本当(のこと)、真相、ありのまま、真理; ἐπ' ἀληθείας, 真実のままに(本当に; ἐν ἀληθείᾳ (虚偽を少しも含まず) 真実に、誠実に.
- ② 真実、信実、誠実、真っ直ぐであること。ヨハネ福音書で普通「真理」と訳されている ἀλήθεια は原則として「神の真実」がイエスの中に実現・実体化されていることを意味している。1:14, 17, ἡ χάρις καὶ ἀλήθεια も神の属性としての「恵みとまこと」(ヘセド・ヴェエメト/詩篇25:10等)のことであろう。

(c) 織田昭 電子版「新約聖書ギリシア語小辞典」改訂第4版

(3) ヨハネの証言

《ヨハネはこの方について証言し、叫んで言った。

「『私のあとから来る方は、私にまさる方である。

私より先におられたからである』と私が言ったのは、この方のことです。』》(15節)

人としての誕生とその公生涯に関するかぎり、ヨハネのほうが先じていた。主のご生誕はヨハネの半年後のことであり、主がご自身の姿をイスラエルの民の前に現されたのは、ヨハネの説教とバプテスマがしばらく行われた後のことであった。

しかし、イエスはヨハネに「まさる」方であった。というのは、主がヨハネより「先におられた」という理由による。主は永遠の昔から存在しておられた神の御子なのである。



私より先におられたお方

(4) 恵みの上にさらに恵みを受けた

《私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである》(16節)

主イエスを信じる人はみな、「この方の満ち満ちた豊かさの中から」恵みを受ける。「恵みの上にさらに恵みを受けた」というのは、原文を直訳すると、「恵みの代わりに恵みを受けた」となる。

この意味は、一つの恵みを受けたら、それでおしまいでなく、その代わりに、また新しい恵みを受けるといこと。

ちょうど泉から水がこんこんと湧き出てくるように、尽きぬ恵みをキリストから頂くことができるという意味である。

さらに、私たちがこの世に生きていく時は、必ず次から次と問題が起こってくるものであるが、その次々と起こってくる問題に対する解答としての恵みがとめどもなく与えられるという意味でもある。



こんこんと湧き出る水

(5) 恵みとまことはイエス・キリストによって実現した

《というのは、律法はモーセによって与えられ、

恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである》(17節)

ヨハネは旧約時代と新約時代を対比している。「モーセ」によって与えられた「律法」は、何が正しいことかを教えはしたが、それを行う力を与えることはできなかった。律法は人間が罪人であることを示すために与えられたが、人間を罪から救うことはできなかった。将来の救い主の雛形(予型)を示すにすぎなかった。

「恵みとまことはイエス・キリストによって実現した」。キリストは世をさばくためにではなく、不適合で、自分を救う力のない、キリストの敵であった者たちを救うために来られた。

「恵み」はイエス・キリストによって実現した。彼は、ご自分の血による贖いを信じる信仰による救いという、神の恵み深い計画を十分に知らせ、全世界に向かって恵みとあわれみの泉を開いてくださった。

「まこと」(真理、実体、実際)も、イエス・キリストによって実現した。旧約聖書時代の雛形(予型)を完成させ、さらに、ご自分を真の犠牲、真の恵みの座、また大祭司として実現されたからである。

(6) 神を説き明かされた

《いまだかつて神を見た者はいない。

父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである》(18節)

どんな人も、父なる神を見ることはできない。見た者はいない。しかし、永遠の昔より父のふところにおられた御子は、人の性質をおとりになり、人の姿となって、私たちに、父なる神を解き明かされた。

キリストの御言葉、行為、死と復活の生涯を通して、私たちは、父なる神について学ぶことができる。父なる神の知恵、大能、計り知れない愛、聖さ、罪に対する憎しみ、これらのことはキリストの生涯を通して、解き明かされた。

「ことば」がご自分の上に体をとられた時、まさしく、「神は肉体において現れた / God was manifested in the flesh」(Ⅰテモテ3:16英文)なのである。「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れである」(ヘブル1:3)。

御子は、「わたしと父とは一つです」(ヨハネ10:30)、また「わたしを見た者は、父を見たのです」(ヨハネ14:9)と言われた。「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています」(コロサイ2:9)。